学校番号	４０８

平成 31 年度　商業科

教科	商業	科目	ビジネス情報	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	ビジネス情報 新訂版（東法出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

情報は、単に機械的に現れて処理をするというものではなく、人間の営みの中で発生し、それを活用して更なる発展につなげていくために存在するものです。特に、ビジネスの諸活動において、情報を主体的、積極的に活用し、将来、職場における情報活用のリーダーとなる意欲と態度を育成していけるような授業にしていきたいと思います。

2　学習の到達目標

１．業務の情報化の必要性、情報通信ネットワークの導入と運用及びデータの保護を取り扱い、オフィス業務において情報通信ネットワークを効果的に活用するための基礎的な知識と技術を習得する。
２．ビジネスに関する情報を表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用して管理、分析、活用する知識や技術を習得する。
３．ソフトウェアを利用したビジネス情報システムの開発について理解し、コンピュータを活用して業務を合理化、自動化するなど積極的に推進する創造的な能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	ビジネスの諸活動において、情報を主体的、積極的に活用し、将来、職場における情報活用のリーダーとなる意欲と態度を持っている。	適切な手段を用いて情報を収集・処理し、要求に応じた適切なシステム開発の要件を整理するなどの思考・判断力・表現力を身につけている。	ビジネスにおける情報活用に必要な、情報の分析手法、システムの開発、ネットワークの構築などの技能を身につけている。	ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割を理解するとともに、ビジネスにおける情報活用を実践するために必要な知識を身につけている。
評価方法	授業態度 提出課題 発表　など	小テスト 提出課題 発表　など	小テスト 提出課題　など	小テスト 提出課題　など

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	ビジネスと情報	(1)情報化社会とビジネス (2)ネットワークとビジネス	○ ○	 ○		○	a: ビジネスにおける情報の活用に興味を持ち、様々な情報処理システムの意義や役割について進んで学ぼうとしている。ネットワーク社会における新しいビジネス形態の進展やその課題について主体的に学ぼうとしている。 b: 業務の効率化や業務の支援活用について考え、適切な判断ができる。ネットワーク社会における新しいビジネス形態の進展やその課題について主体的に考え、判断し表現できる。 d:ビジネスと情報の関連および、基幹業務システムに関する基本的な知識を身につけている。企業において利用されているＰＯＳ・ＣＲＭなどの業務システムを学び、ビジネスにおける情報活用の基本的な知識を身につけている。	授業態度 小テスト 提出課題 発表 など
1	情報通信ネットワークの活用	(1)ネットワークの基礎 (2)ネットワークの構築と管理 (3)サーバ管理 (4)セキュリティ管理	 ○ ○ 	○ ○	 ○ ○ 	 ○	a: ネットワークの構築について関心を持ち、ネットワーク構築に必要なハードウェアやソフトウェアについての学習や実習に積極的に取り組もうとしている。ネットワークの管理やデータの保護、セキュリティ管理について関心を持ち、進んで知識や技術を身につける。 b: ネットワーク構築に必要なハードウェアやソフトウェアを適切に選択できる。ネットワークの特性や課題を理解し、適切な判断に基づくデータの保護やセキュリティ管理の基準が整理できる。 c: 簡易なネットワークを構築するための機器の設定などの技術を身につけている。サーバを利用した、簡易なファイルの共有管理、データの保護、セキュリティの管理などができる。 d: ネットワークの構成、必要なハードウェア、ソフトウェアとその設定など、ネットワークの構築に必要となる基本的な知識を身につけている。ネットワークの構築についての基礎的な知識、構築に必要なネットワークの設定方法、サーバやセキュリティの知識を理解している。	授業態度 小テスト 提出課題 発表 など
2	表計算ソフ	(1)集計処理 (2)オペレーションズリサーチの基礎 (3)ビジネス計算	○ ○ 	○ ○	 ○ ○	 ○ ○	a: オペレーションズリサーチについて関心を持ち、分析実習に積極的に取り組み知識・技術を身につけようとしている。財務情報や販売情報の分析と活用を通して、ビジネスに関する様々な情報を進んで分析しようとしている。	授業態度 小テスト 提出課題 発表 など

	トウェアの活用	(4)手続きの自動化	○		○		b：オペレーションズリサーチの様々な分析手法を活用して分析結果を表現できる。財務情報や販売情報の分析結果から企業の財政状態や経営成績、販売成績などを判断することができる。効率的な分析結果を適切に表現できる。 c：オペレーションズリサーチの手法、シミュレーションや線形計画については、ゴールシーク、ソルバーなどの機能を活用しながら、与えられた条件下における最適な解を導き出すことができる。「マクロの記録」の機能を利用して、処理を自動化することができる。 d：様々な分析手法や活用方法を理解している。グラフを用いたデータの分析方法を理解している。マクロの記録機能を用いた手続きの自動化の考え方と方法を理解している。分析方法、及び分析結果の活用に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	
2	データベースソフトウェアの活用	(1)ビジネス情報とデータベース (2)データベースの利用 (3)SQLの操作	 ○ ○	○ ○ 	○ ○	 ○ 	a：データベースの活用に関心を持ち、ビジネスにおけるデータベースの活用方法について、進んで考えようとしている。データベースの作成に関心を持ち、その学習や実習に進んで取り組み知識・技術を身につけようとしている。 b：業務の特性を判断し、データベースの効果的な活用方法を思考し判断することができる。作成過程におけるエラーの処理や、作成したデータベースをより使いやすくするための修正などについて設計ができる。処理の内容により、マクロ機能やＳＱＬを使い分ける。 c：目的に応じたデータベースの設計や作成を行うことができる。データベースソフトウェアの処理の自動化ができる。画像などのオブジェクトデータを扱うことができる。ＳＱＬによるデータベースの操作ができる。 d：データベースの役割、しくみ、整合性の構造やリレーションシップの意味が説明できる。	授業態度 小テスト 提出課題 発表 など
3	ソフトウェアを活用	(1)システム開発の基礎 (2)アルゴリズムの基礎 (3)表計算ソフトウェアによる開発 (4)データベースソフトウェアによる開発	 ○ ○ ○	○ ○ 	 ○ ○	○ 	a：情報処理システムの開発に興味を持ち、その設計や作成の方法を積極的に学ぼうとしている。ソフトウェアを用いた開発の一連の工程に関心を持ち、ソフトウェアの特色を生かした実習に積極的に取り組み知識・技術を身につけようとしている。アルゴリズム，マクロの学習に興味を持ち、自ら進んで様々な処理を学ぼうとしている。 b：情報処理システムの開発の手順や開発モデ	授業態度 小テスト 提出課題 発表 など

	したシステム開発						ルを理解し、各手順の目的や開発の内容を適切に説明できる。システムの特徴を理解し、適切なソフトウェアを選択しようとしている。データ処理の目的に応じたマクロを自ら考え、アルゴリズムなどに表現することができる。 c: 各開発工程において必要な設計書や報告書の作成ができる。データベースソフトウェアを利用し、設計書に基づいて実際にシステムを構築することができる。データ処理の目的に応じたマクロを自ら考えて作成することができる。 d: システム開発における代表的な開発モデルと、ユーザインタフェースなどに配慮した開発手法について、基礎的な知識を理解させる。マクロの基本的な文法を理解し、命令文を記述できる。判断や繰り返しのアルゴリズムを理解し、マクロを記述できる。	